

昭和五十一年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第一号

館山市議會

一、昭和五十一年十二月十日（金曜日）午前十時

一、昭和五十一年十二月十日（金曜日）午前十時
館山市役所議場
出席議員 三十名

- 1 -

収納課長 高山 隆男
農水産課長 岩崎 一郎
衛生課長 石井 謀
防災課長 羽山 房雄
鳩山荘支配人 飯田 忠男
水道課長 大嶋 重義
兼衛生課主幹 沙崎 政光
教育委員 川上 賢爾
庶務課長 櫻本 繁
教育課長 石原 斉
農務委員 長 石原 斉
事務局 長 石原 斉

商工観光課長 中村 正雄
保健課長 越路 良夫
建設課長 飯田 治男
市民センター 館 角田 巖
福祉事務所長 山口 一
教育委員 安田 豊作
教育委員 佐野 啓男
学校教育課長 川名 備
社会教育課長 岡 政雄
監査事務局 長 吉岡 政雄

出席事務局職員

事務局 長 高尾 豊
書記 兵藤 恭一
書記 蜂谷 達二
書記 鈴木 木哲
書記 福田 英雄

一、議事日程（第一号）

昭和五十一年十二月十日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

議案第六十二号 千葉県競輪組合規約の一部変更につ

いて

議案第六十三号 昭和五十一年度館山市一般会計補正

日程第三

議案第六十四号 昭和五十一年度館山市国民健康保険

特別会計補正予算（第一号）

議案第六十五号 昭和五十一年度館山市ユースホステ

ル特別会計補正予算（第一号）
議案第六十六号 昭和五十一年度館山市水道事業特別
会計補正予算（第一号）

開 会 午前十時五分開会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十九名、これより昭
和五十一年度第四回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を
開きます。

議長の報告

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会議案審議のため、地方自治法百
二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり
出席報告がございましたので御了承願います。

なお、監査委員より九月乃至十一月実施の監査の結果が報告さ
れております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願
います。

議案の配付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏
れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行
います。

一五番議員辻田 実君、一六番議員安西益男君、以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本十二月十日から十二月十四日までの五日間ということであります。

お諮りいたします。会期を五日間と定めますことに御異議ありませんか。

（異議なし）と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって会期は十二月十日から十二月十四日までの五日間と決定いたしました。

提 案 理 由 の 説 明

○議長（吉田勇治郎君） この際本定例会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日ここに第四回市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆さま方に置かれましては年末御多忙のところ御出席賜りまことにありがとうございます。

今回提出いたしました案件は、一般議案一件及び補正予算四件でございます。

以下概要につきまして御説明申し上げます。

まず議案第六十二号千葉県競輪組合規約の一部変更についてありますが、同組合の事務所を移転させるため規約を変更する必

要が生じたものであります。

次に議案第六十三号から第六十六号までにかかわる各補正予算についてであります。一般会計補正予算につきましては、今回は歳入歳出予算及び地方債の補正であります。

まず歳入歳出予算補正といたしまして、歳入歳出それぞれ三百六十八万二千円の追加をお願いするものでございます。

歳出のうち主なものといたしましては、民生費といたしまして心身障害者医療給付扶助費、老人ホーム収容措置扶助費等の扶助費関係で、基準単価のアップ及び給付件数の増等に伴いまして一千四百八十二万六千円、児童措置費委託料の基準単価アップに伴って一千四百二十二万九千円の追加、衛生費としまして自動車修繕料三百六十万円、埋立整地用自動車借上料三百十七万円、清掃自動車購入費二百万円、し尿処理機械修繕費百七十万円の追加、農林水産業費としまして果樹生産性向上対策事業補助金百三十三万円の追加、緊急粗飼料増産総合対策事業委託料で千三百五十九万六千円の減額、緊急粗飼料等生産利用合理化事業補助金で四百七十八万一千円、水産関係では漁場改良事業補助金百九十五万八千円、構造改善事業補助金二百七十二万円の追加であります。これらはいずれも国、県の補助事業であり、国、県の事業査定により変更されたものの増減であります。消防費としまして自動車等修繕料百二十八万七千円の追加及び消防自動車の購入費残二百二十四万一千円の減額、教育費としまして一中及び二中の防音改築工事費の残五千五十万円の減額並びに一中移転に伴う倉庫自転車小屋の工事費等で三百七十七万九千円、二中の完成に伴い同校で使用しておりましたプレハブ教室を九重小、館山幼稚園、

神戸幼稚園に移転する工事費として三百五十三万余円、公債費としまして地方債利子二百六十七万一千円、一時借入金利子百十九万六千円の追加であります。

この財源としまして、財政対策債等の一般財源で一千二百三十三万二千円の追加をするほか、国、県支出金等の特定財源で八百六十五万円の減額をそれぞれ計上いたしました。

次に地方債の補正につきましては、現在までに起債が許可される見通しとなりましたものについての補正であります。

国民健康保険特別会計補正予算及びユースホステル特別会計補正予算につきましては、それぞれ歳入歳出予算の補正であります。が、国保会計におきましては助産費、育児手当等の今後不足を生ずる見込み額三百二十七万四千円を追加するもので、この財源としまして国庫補助金及び繰越金を、またユースホステル会計におきましては業務用器具費としまして二十三万五千円を追加するもので、この財源としまして繰越金をそれぞれ計上いたしました。

水道事業特別会計につきましては、資本的収支の予算補正としまして一億二千三百四十万四千円の追加をしようとするものであり、水道拡張事業費に全額を計上いたしました。水道拡張事業につきましては昭和四十九年以降継続事業として実施し、すでにダム工事を終り、現在浄水場建設に鋭意努力をいたしてあるところでありますが、さらに住民の要望にこたえ、一日も早く給水いたすべくかねがね防衛施設庁に対し防衛施設周辺生活環境整備補助金の追加を要望してまいりましたところ、最近に至りようやく認められ、これに伴う企業債につきましても追加の確認が得られましたので、来年度に予定されていました配管工事の一部を本年度

に繰り上げ実施する考えであります。これにより昭和五十二年夏の一部給水が明るい見通しとなります。

以上 簡略ではございますが、各議案の説明を終わります。

なお、詳細につきましては、関係課長等をして説明いたさせていただきますので、よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつ並びに説明を終わります。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十二号乃至議案第六十六号を一括して議題といたします。

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となりました各案件は、本日はこれが内容説明のみといたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

この際お諮りいたします。ただいま議題となりました各案件は、朗読を省略して直ちにこれが内容説明を求めたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

これより順次説明を求めます。

議案第六十二号 千葉県競輪組合規約の一部変更について

(財政課長山田俊康君登壇)

○財政課長(山田俊康君) 議案第六十二号について御説明申し上げます。

千葉県競輪組合規約の一部変更について、市長のあいさつの中にありましたように規約の第四条組合の事務所の移転でございます。

従前の規約は「管理者所在の市におく」という規約でございました。今回千葉縣市村町職員共済会館ができ上がりました、その中に事務所を置くということで、所在地を、組合の事務所は千葉市中央港一丁目八十一番地四に置くというふうに改めたいということでございます。

議案第六十三号 昭和五十一年度館山市一般会計補正予算(第

二号)

(財政課長山田俊康君登壇)

○財政課長(山田俊康君) 議案第六十三号について説明いたします。

昭和五十一年度館山市一般会計補正予算第二号、今回の補正におきましては第一条にお示しをいたしました歳入歳出予算に対します補正と、第二条の地方債の追加変更の二点でございます。

歳入歳出予算の補正は、歳入歳出それぞれ三百六十八万二千元を追加し、歳入歳出それぞれ四十六億九千五百四万一千円といたしたい予定のものでございます。

細部に入りましては、歳出面の追加が六千七百二十七万七千元

更正額が六千三百五十九万五千元あります。差し引き三百六十八万二千元の補正ということになります。補正をいたします細目につきましては二ページから四ページまででございます予算により記載してございますが、こまかくは慣例によりまして事項別明細書によりのちほど申し上げます。

地方債の補正変更は五ページにございますので、五ページをお開きいただきたいと思ひます。

今回限度額におきまして、県と協議の結果それぞれ増減がございました、減額されるものが全部で六百九十万円、増額になりましたものが二千四百四十万、差し引き千七百五十万円の追加ということになります。

利率におきましては、三月議会で御決議をいただきました九・〇%以内というのが、金融機関等と交渉いたしました結果どうしてもそれにおさまりませんので、現在大勢として九・一%というような利率と言っておりますので、大変恐縮ですが九・五%以内というふうに改めさせていただきたいと思ひます。

続いて歳出の事項別明細書により御説明申し上げます。

総務費・総務管理費・一般管理費におきまして十二万二千元の増、今回土地取引届出事務関係で八万、土地調査委託金で二十三万、都合三十一万円の県支出金がございます、既定予算の中で十八万八千元をまかいます。不足分十二万二千元を旅費、備品購入費に計上させていただきました。

諸費におきまして四十万七千元。報償費二万円は三月までの弁護士謝礼の不足額をお願いしてございます。償還金利子及び割引料三十八万七千元につきましては、五十年度に概算交付された国

県の負担金、補助金の精算による返還金でございます。大きなものとしては重度障害者福祉手当給付事業国庫負担金三十五万五千二百円という返還でございます。そのほか四件ほどで三十八万七千円の返還。

徴税費におきまして十七万三千円、印刷費、郵便料等年度末までの不足見込み額をお願いいたしてございます。

戸籍住民基本台帳費におきまして、同じように三月までの不足見込み額をお願いしてございます。

統計調査費におきまして今回委託金が減額になりました。六十三万六千円の減額、それに見合うように歳出も同じように減額をさせていただきます。

一七ページの最後の欄に国民年金事務費というのがございますが、この郵便料につきましても年度末まで不足見込み額を計上させていただきました。

民生費以下それぞれ主管課長から御説明申し上げますのでよろしく願ひ申し上げます。

(福祉事務所長山口 一君登壇)

○福祉事務所長(山口 一君) 一七ページ第三款民生費について御説明申し上げます。

今回補正をお願いいたしますのは二千九百六十九万七千円の追加でありまして、補正後の額を十億八千七百二十万八千円といたしたいものでございます。

その内容は、第一項第一目社会福祉総務費に五百九万八千円の追加であります。この内訳は一九節交通遺児手当十万八千円につきましては支給対象人員の増加によるもので、現在二十六名に

支給いたしております。

二〇節扶助費四百九十六万六千円でございますが、身障者、精薄者の援護につきまして件数の増加、措置費単価の増額改定等に伴いまして、この程度の不足が見込まれますので、追加をお願いいたします。

五番目にあります重度障害者福祉手当七十七万五千円につきましては、従来月額四千円であったものが、本年十月より月五千円に増額改定となりましたので、それに伴う追加分でございます。

なお、現在二百六十五名の者が受給いたしております。

次の重度障害者等福祉手当十二万円の減でございますが、当初見込みよりも国の制度に該当する者が多く、対象人員が減少いたしましたので、今回減額をお願いしたものでございます。

次の心身障害者医療給付扶助費でございますが、百五十二万七千円につきましては、当初の見込みより受領件数が増加いたしましたので、今後この程度の不足が見込まれますので、追加をお願いいたします。

下の進行性筋萎縮症者給付扶助費、身障者日常生活用具交付扶助費につきましては、当初見込みなかったものですが、今回給付の必要が生じたので、新たに追加をお願いしたものでございます。

二二節奨学資金貸付金二万四千円につきましては、実際の貸し付けに当たりまして高校、大学の貸し付け者数に変更がありましたので、不足分を計上したものでございます。

一八ページに移りまして第二項第一目老人福祉総務費九百八十八万一千円の追加でございますが、その内訳は十二節老人健康診査

手数料三万三千円につきましては、受診件数が見込みよりも大幅に増加いたしましたので、それに伴う不足分でございます。

一九節補助金は、老人クラブ連合会補助金二十四万九千円につきましては、当初一クラブ当たり年三千六百円の割合で計上してありましたが、今年六千円と増額改定されましたので、その差額分を追加したものでございます。

下の老人社会奉仕団補助金二十六万二千円の減でございますがこのたび県の補助規程がかわりまして、市の予算を通さず県より直接奉仕団に交付されることになりましたので、減額をお願いしたものでございます。

二〇節老人ホーム収容措置扶助費九百六十九万一千円でございますが、収容措置人員の増加と措置費単価の増額改定によりましてこの程度の不足が見込まれますので、追加をお願いしたものでございます。

なお、現在養護老人ホームに二十九名、特別養護老人ホームに二十六名の収容措置をいたしております。

次の老人性白内症手術費支給費十六万八千円につきましては、今回その必要が生じたので新たに追加計上をお願いしたもので支給額の十分の九は県費補助となります。

第二目の老人福祉医療費一二節の医療費審査手数料十四万四千円でございますが、審査件数の増加に伴いまして不足分がございますので追加をお願いしたわけでございまして、年間約四万件を予定しております。

次が第三目老人福祉センター費七万六千円の追加でございますが、センター運営上の諸経費でございまして、中の一四節自動車

借上料六万円につきましては、利用者の送迎用のバスの借上料でございます。

次に第三項第二目児童措置費一三節の委託料千四百二十二万九千円の追加でございますが、私立保育園に対します措置児童の委託料でありまして、措置児童数の増加と保育単価の増額改定によりこの程度の不足が見込まれますので、追加をお願いしたものでございます。

なお、年間四千三百名を予定しております。

次の第四項第一目生活保護総務費九万六千円の追加につきましては、生活保護法施行上の必要事務費として追加計上したものでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

(衛生課長石井 謀君登壇)

○衛生課長(石井 謀君) 引き続きまして第四款衛生費につきまして御説明申し上げます。

今回追加補正をお願いいたしますものが千三百十二万七千円でございます。その内容につきまして申し上げます。

一目清掃総務費につきましては、一節報酬の一万六千円。清掃事業運営審議会委員報酬でございますが、し尿、ごみ等の手数料改定についての諮問を予定しております委員の報酬でございます。次に九節の旅費六十九万円でございしますが、九月議会におきましてし尿処理施設の先進地視察旅費といたしまして関係者約百五十名分、二百三十万円を議決いただきました。その後運賃及び料金等の改定約五五%の値上げによりまして不足を来すことになりましたので、追加をお願いする次第でございます。

次に一三節委託料十五万円。不動産価格鑑定委託料につきましては、真倉日坂の予定地についての価格鑑定をしていただくための委託料でございますが、委託先は日本不動産研究所千葉支所を予定しております。この研究所は主に公共事業にかかわる不動産鑑定をいたしております、県とか、あるいは県の関係機関、そういうようなところが主に利用しておるような機関でございます。次に二目のじん芥処理費につきまして御説明申し上げます。

一 一節の需用費四百七十七万円につきまして申し上げます。

まず燃料費九十七万六千円でございますが、これは軽油とガソリン代でございます。年度の途中におきまして単価の値上がりによります不足分でございます。じん芥車等十九台分のガソリン代及び軽油でございます。

それから光熱水費の関係で十三万一千円につきましては、これもやっぱり本年の九月から値上がりしました関係で、この程度不足を生ずるというようなことでございます。

次に修繕料の三百六十万円でございますが、これはタイヤショベル、あるいはショベルというような特殊車をごみの処理場にあるわけでございますが、これが昭和四十四年並びに四十五年に購入いたしましたために、耐用年数が経過いたしましたために、当初予定しておりました予算額を大きく上回ったということで、追加をお願いするわけでございます。

次に一四節の使用料及び賃借料でございますが、これはごみの埋め立て地に使用するブルとダンプの借り上げでございますが、これはブル関係につきましては十トン乃至十六トンと、それからダンプにおきましては八トン乃至十一トンというような大型のも

のでございますが、これを借り上げて埋め立て地を掘削いたしました、そこに生ゴミ等を入れておるわけでございますが、当初見込んでおりましたものが一カ月に大体八日間程度を見込んでおったわけでございますが、たまたま現在それを掘り起こしている地盤が岩が出まして、一カ月に八日間程度ではできなくなったということでございます、この日数が現時点におきまして十五日程度かかっているということでございますので、ぜひ御承認いただきたいと思います。

一 八節の備品購入費二百万円でございますが、これは圧縮式じん芥集収車一台分の購入費でございます。九月議会におきまして一台を議決いただきましたんですが、起債関係におきまして二台分が大体見通しがございましたので、今回もう一台をお願いしたいということでございます。

二 七節の公課費は、いま申し上げましたじん芥車の公課費——自動車重量税でございます。

次に三目のし尿処理費の二百三十四万三千円につきましての内容を申し上げます。

まず一 一節の需用費のうち燃料費・これは自動車二台分でございますが、先ほど申し上げましたような値上げによるものでございます。

電気料四十六万三千円も値上がり分でございますので、三月まで不足を生ずる分を追加をお願いしたわけでございます。

水道料につきましては、これはボイラーの水に使用しておるものでございますが、八万四千円をお願いしてございますが、これは前年度まで山からしぼれてくる水、これを貯水しまして、ろ過

して、その水を利用しておったわけでございますが、本年の初めごろから水が非常に少なくなって、勢い水道利用にたよるといような形になったわけでございまして、追加をお願いしたわけでございます。

次に修繕料の百七十万円でございますが、し尿処理施設の器具機械が全般的に耐用年数が経過いたしましたして、摩滅している箇所があるわけでございますが、いままで大事を取りながら操作をいたしておったわけでございますが、たまたま十一月の十六日の日に脱水機が故障いたしました。分解いたしましたところギアとスプロールという速心分離機の関係でございますが、これが摩滅いたしましたして使用不可能になったというような状況でございますので、これに要する修繕費を見込んだわけでございます。

以上で衛生関係を終らせていただきます。

(農水産課長岩崎一郎君登壇)

○農水産課長(岩崎一郎君) 引き続き農業費関係につきまして御説明申し上げます。

今回お願いいたしますものは、先ほど市長の御説明ありましたとおり国、県の補助事業でございまして、それらの繰りかえ、減あるいは増という内容でございまして。

最初に第三目の農業振興費の中の補助金、これは二件でございます。

最初の果樹生産性向上対策事業でございしますが、これは当初予算におきまして沼ピワ組合に対するモノレールによる搬送施設の事業でございましたが、これが追加として今回新たに認められたものでございます。これが百三十三万円でございます。内容はモ

ノレールの延長四百五十メートル、四個所でございます。これに對しまして県が三割、市が二割、合わせまして五割の補助をいたそうというものでございます。

次の村ぐるみ農業推進協議会補助金でございますが、御承知のように本年度から県の目玉事業といたしまして農政の大きな部分を占める事業でございます。これは部落組織機能を通じて、農家個々の経営、生活、こういったものを村ぐるみ能率指導をいたし、いろんな事業を策定し、推進して農家の安定に資そうというものでございます。館山市の場合は稲、腰越、広瀬、この三部落が指定を受けておりまして、それらの部落の代表者によります推進員十五名によって協議会が結成されております。この協議会に対する補助でございまして、部落当たり十二万円で三十六万円というところで今後の活動に資そうというものでございます。

次に四目の畜産業費でございますが、一二節の役務費は牧場の電話料の不足分でございます。

一三節の委託料につきましては、当初予算でお願いいたしました基盤整備といたしまして、草地の基盤整備を県の認定によりまして本年度実施予定でありましたが、国、県の事情によりましてその一部を五十二年度に繰り越され、かわって一九節にございます緊急粗飼料等生産利用合理化事業——これは機械の導入でございますが、草地利用、機械施設を五十二年度予定してありましたものを五十一年度に繰り上げて実施しようというものでございます。事業の繰りかえでございまして。

五十二年度に繰り越ししようとするものは、新規草地の開墾でございまして、八ヘクタールに及ぶ工事量でございます。この工

事につきましては市の直営事業といたしますもので、それらに対応する歳入がそれぞれ特定財源、あるいは財源内訳の欄にお示ししてございます数字を減額しようというものでございます。その他とありますのは分担金であります。事業費の四分の一に当たります分担金を三百三十九万九千円減額しようというものでございます。これらは五十二年度に改めて実施しようというところでございます。

かわりまして一九節におきます機械の導入に対します補助金でございますが、これは総額で九百五十六万円でございます。これは国から補助がございます。百分の五十一・五〇%の補助でございますが、それだけでございます。九百五十六万円の半額に相当いたします四百七十八万一千円を補助しようとするものでございまして、トラクター三台、自走モーターが三台、カッター七台、駆動耕運機が四台、合わせまして九百五十六万二千円となるわけでございます。その半額を今回お願いいたしますものでございます。次の農地費につきましては、九節の旅費。これは三月までの不足分をお願いいたしました。

それから一三節の委託料七千円は、電子コピーの不足分をお願いいたしましたわけでございます。

一九節の負担金につきましては、全国自然休養村協議会。今回お願いいたしましたわけでございます。

次の補助金の五十一万四千円でございますが、これは当初予算でお願いいたしました時点と、初めての新しい機械——コンバインでございますが、この価格が大分付属品その他のものを加えまして不足が生じました。これが認定されまして、その追加分とし

て五十一万四千円を今回お願いいたしますものでございます。御承知のようにこれは半額の補助でございます。

次に水産業費でございますが、水産業振興費の八節報償金、これは十五万円でございますが、これは市内の五つの漁業協同組合の組合員の漁船による水揚げ高、こういったものを奨励するといふ見地から最優秀者に市長が表彰したいということでございます。

細かいことを申し上げますと、優勝旗を持ち回りで五つそれぞれ漁協に贈るわけでございますが、これを市長賞として毎年持ち回りで表彰したいという内容のものでございます。

次に一九節の補助金、これは二件でございます。

漁場改良事業補助金でございます。これは当初県単補助事業といたしました西岬、船形、相浜、各漁協の出先の魚礁を築造する事業でございますけれども、その後国の認定補助がつきまして事業分量が新たにふえたわけでございます。その増加分といたしまして今回百九十五万八千円をお願いするものでございます。これは六分の五が国、県の補助でございます。市がさらに十分の一上乗せして百九十五万八千円の増加分を今回お願いいたしましたわけでございます。この事業費は五百二十八万円に相当するものでございます。

次に構造改善事業補助金でございますが、これは小型船団——約十隻程度の一集団でございます。これに対して安全操業を主体といたすもので、リーダー、方向探知機、無線機等のセットをこの船団に組み込みまして、事故のない、海難を絶無にしようといふための施設でございます。これを県の補助事業として今回船形漁業協同組合に設置しようとするものでございます。この事

業費に対して先ほど申し上げましたような割合の七〇%の補助金、市が一五%を加えまして二百七十二万円を補助しようとするものでございます。事業費は三百二十万であります。

以上で説明を終わりたいと思います。よろしく御審議お願いいたします。

(防災課長羽山房雄君登壇)

○防災課長(羽山房雄君) 二二ページをお開きいただきしたいと思います。

九款消防費について御説明いたします。

今回の補正は、一項消防費におきまして六十七万四千円の補正をお願いいたしました。

以下一目の非常備消防費につきまして御説明申し上げます。

八節の報償費二十八万円、これは七月三十一日付をもちまして二名の団員が退職いたしました。その退職報償金でございますが、この財源として歳入の中に基金収入として二十八万計上してございます。

次に一節の需用費の百二十八万七千円、修繕料としてお願いしたわけでございますが、これは昨年の修繕等の実績に合わせまして不足分を今回お願いしたわけでございます。消防ポンプ自動車等の修理代でございます。

次に二目の消防施設費におきまして二百二十四万一千円の減額補正でございます。

一五節の工事請負費・サイレン取付工事請負費として五十五万円をお願いし、それから防火貯水槽の建設工事請負費として五十五万同額のものを減額してございますが、たまたま額が同額にな

ったのでありますが、防火貯水槽の建設工事請負費は四カ所の防火貯水槽を本年実施いたしましたところ、入札にかけまして請負残が五十五万ございましたので、この減額をお願いしようとするものでございます。

なお、サイレン取付工事費の五十五万は特殊寄付によって設置しようとする、これも同額のものが寄付の中に算入されております。

次に一八節の備品購入費二百二十四万一千円の減額でございますが、これは当初予算におきまして消防ポンプ自動車の大型を六百万で購入すべくお願いいたしました。これが競争入札によりまして四百九十万で購入ができ、さらに中型のポンプ自動車四百万を計上いたしました。それが二百八十五万九千円で購入ができ契約を結びましたので、差額の二百二十四万一千円を減額しようとするものでございます。

よろしく願います。

(教育委員会庶務課長汐崎政光君登壇)

○教育委員会庶務課長(汐崎政光君) 二三ページの一〇款教育費について御説明申し上げます。

一項教育総務費の三目放送センター費の中で一節需用費で十三万円追加計上いたしました。これは年度末までの電気料の不足分を見込みまして計上したものでございます。

それから二項の小学校費の中の学校管理費一五節の工事請負費で百十一万七千円計上させていただきました。これは現在二中で使用しておりますプレハブ校舎でございますが、これは新校舎完成後に取り壊す必要があるわけでございますので、音楽室等が

不足しております九重小学校へその中の二教室を持っていきたい
こういった計画のものとございます。

それから一八節の備品購入費の五十万円ですが、これは館野小
学校への図書購入を予定してのものでございますが、去る九月に
館野出身の黒川一夫さんと申します方から母校のために寄付の
あったものでございます。

それから八節の四万円と一一節の需用費の三万円、これらはと
もに執行残でございます。

それから一八節の備品購入費の八万円は、富崎小へ鼓笛隊の楽
器を購入する予定のものでございますけれども、これは二五ペー
ジの六項の保健体育費の中で一八節備品購入費としまして二十二万円
計上してございますが、これも富崎小へ剣道防具を購入すること
を予定して計上したものでございまして、この二点はともに富崎
出身の現在東京にお住まいの青木利三郎さんという方から指定寄
付のあったものでございます。

三項の中学校費の学校管理費の中の一一節の需用費の一万円と
次ページの二目教育振興費の中の八節報償費の中の二万円、これ
はともに西岬中学校が県から委託を受けておりまして視聴覚の研
究を現在進めております。それに要します経費でございます。

その上の二四節の投資及び出資金の九万三千元ですが、一中の
新校舍へ電話を架設するにあたりまして必要とされます債券購入
の不足分でございます。

それから三目の学校建設費の中の九節の旅費の三万円、これは
年度末までの不足見込みを計上させていただきました。

それから一一節の需用費の十万円、これも補助金交付申請用の

設計図面代の不足分を計上させていただきました。

一二節の役務費の三十万円でございますが、これは一中の移転
に關係しての予算でございますけれども、一中移転にあたりまし
てはPTAから全面的な協力の申し出を受けておりますけれども、
重い物、壊れやすい物、こういったものは業者へ依頼をしたく
三十万円の予算を計上させていただきました。

それから一三節の委託料の三十五万円、これは執行残でござい
ます。

一五節の工事請負費の四千六百七十二万一千円でございますけ
れども、これは一中、二中の工事請負契約の残の五千五十万円、
これから一中移転に伴いまして早急に必要となります——説明欄
に記入いたしましたような施設の工事費等を除いた額でございま
す。

一中プレハブ倉庫の移設でございますが、これは現在二中の使
用しておりますプレハブ校舎の中三教室を倉庫として二教室、ク
ラブの部室の不足分として一教室を移設したい計画のものでござ
います。

それから一中部室移設工事、これは現在一中の使用してありま
すクラブの部室の一棟だけを新しい一中に移設したい計画のもの
でございます。

二中のプレハブ移設工事でございますけれども、これは現在教
室として二中が使用しておりますものの一教室分を二中の体育倉
庫としまして校地のすみのほうに移設したい計画のものでござい
ます。

それから一中の樹木移転工事でございますけれども、これは現

在の一中の用地の中に卒業記念とか地元の人への寄付による記念樹が数多くあるわけでございます。その中の一部を新しい一中に移転させていただきたい。そのための工事費、これらを取り上げたわけでございます。

一八節の負担金補助及び交付金の十万円でございますけれども、これは一中の水道引き込み工事の負担金でございますが、当初予算におきまして七十五万円だけ予算計上させていただいておりましてけれども、当初の七十五万円の中に量水器の購入代金が含まれておりませんでしたので、その分をここに追加計上させていただいたわけでございます。

それから四項の幼稚園費の中七節の賃金の十四万六千円は、産休、病休等の補助教員の賃金の年度末までの不足見込み額を計上させていただきました。

一八節の工事請負費の二百八十六万九千円、館山幼稚園と神戸幼稚園のプレハブ教室の移設はともに現在二中の使用しておりますものの移設でございますけれども、両園とも現在の教室が基準面積よりもはるかに狭い状態でございますので、館山幼稚園へ二教室、それから神戸幼稚園へ一教室、それぞれ移転をさせていただいてその補いといいたい、こういった考えに基づくものでございます。

それから館山幼稚園の廊下新設工事でございますけれども、これは館山幼稚園へ二教室のプレハブ教室を持ってまいります。それと現在の園舎とを結ぶ渡り廊下、これをつくりたいための工事費、それを見ただけでございます。

それから五項の社会教育費の中の図書館費で、九節旅費で四万

五千円計上させていただきましたが、これは年度末までの不足見込み額を計上させていただいたものでございます。

それから二七節の公課費の六千円、自動車重量税の値上げ分を計上させていただいたものでございます。

六項の保健体育費は、先ほど申し上げたとおりのものでございます。

以上よろしく願います。

(財政課長山田俊康君登壇)

○財政課長(山田俊康君) 二一ページをお開きいただきたいと思います。

二一ページ漁港建設費、節何にもありませんけれども、財源内訳のところでは一般財源十万円減、起債の額が十万円増。起債が十万円増になりましたのでそのようにお願いしようございます。

商工費中、観光費におきます海岸清掃人夫賃金、それから次のページの通信運搬費、年度末までの不足見込み額を計上させていただきます。

土木費におきましてこれも河川、港湾、都市計画、起債の増額あるいは減額に伴います財源補正、一般財源と地方債とのやりくりでここに計上させていただいております。

住宅費に関しましては土地借上料の不足額を市営住宅——この場合には船形の漁民住宅の土地借上料不足額を計上させていただきました。

二五ページ一二款公債費の関係でございますが、利子で二百六十七万一千円。五十年度の借入のものにかかります起債が年度末に決定され、しかも借入時期がちょっとずれたりしまして返済

期日等の関係から来年三月までに期日が到来しますものを精算いたしましたところ、付記にございますようにそれぞれかわってまいりましたので、不足額二百六十七万一千円をお願いした次第でございます。

なお、一時借入金金利子につきましても、同じように年度末までの不足見込み額をお願いした次第でございます。

以上で歳出の説明を終らせていただきますが、歳出の追加額は六千七百二十七万七千円、更正額が六千三百五十九万五千円でその差三百六十八万二千元が歳出予算総補正額となります。

引き続き九ページの歳入について御説明申し上げます。

歳入におきまして分担金及び負担金、先ほどの歳出に対応しますものでございますが、大きなものだけ拾ってちょっと申し上げます。てみたいと思います。

緊急粗飼料関係で三百三十九万九千円の減、補助金の減によります分担金の減ということでございます。

児童福祉施設負担金百十七万二千元、児童福祉法の関係によります負担金の増。

国庫支出金、国庫負担金、民生費国庫負担金で二千万の増、先ほど歳出で説明いたしましたものに対応するものでございます。

次のページの国庫補助金三千八百十五万円、防音改築校舎の関係の減ということでございます。

県支出金におきましては、緊急粗飼料関係、あるいは集団操業、あるいは漁場改良関係の補助金が主なものでございます。

次のページになりますけれども、一二ページ県の委託金は、統計の関係の補助が減額、土地調査が二十三万ほど。

そして、寄付金で百三十五万。歳出に対応いたしますように教育関係で八十万、そして消防で五十五万、それぞれ御寄付をいただいております。

諸収入・過年度収入で五十年度の老人保護費の国庫負担金百六十八万二千元が収入されております。

消防共済の収入二十八万。

市債の関係では、先ほど五ページで御説明申し上げましたように、それぞれの事業に対応いたしましたように増額、または減額が行われました。減額が六百九十万、増額が二千四百四十万、差で千七百五十万の増ということになります。

以上で歳入の説明を終らせていただきますが、歳入の追加額のほうは七千九百二十八万三千円、更正額が七千五百六十万一千円、その差三百六十八万二千元が今回の歳入予算総補正額ということになります。

なお、これを財源別に申し上げますと、一般財源におきまして今回千二百三十三万二千元を追加しております。特定財源で八百六十五万の減額となります。それらのことは七ページを御覧いただきますと出ておりますが、一般財源、特定財源の比率を当初予算の累計から申し上げますと、今回第二号の補正後の一般財源は三十一億一千九百六十二万四千円、比率は六六・五％です。特定財源は十五億七千九十一万七千円で比率は三三・五％ということになります。

以上で議案第六十三号の説明を終わります。

議案第六十四号 昭和五十一年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算（第一号）

(保健課長越路良夫君登壇)

○保健課長(越路良夫君) 議案第六十四号につきまして御説明申し上げます。二九ページでございます。

本案は国民健康保険特別会計の補正予算第一号でございます。

今回の補正は第一条にお示しをいたしましたとおり、歳入歳出ともに三百二十七万四千円を追加し、それぞれ十一億三千六百九十五万四千円の歳入歳出予算にいたしたいとするものでございます。

補正内容につきまして歳出から事項別明細によって御説明申し上げます。

三二ページでございますが、中ほどに二款保険給付費におきまして三百七十四万四千円を追加し、十億五千六百二十五万五千円としうとするものでございまして、三項におきまして助産費に二百七十六万円の追加をいたします。これは被保険者が出産いたしました場合四万円の助産費を給付するわけでございますが、本年度は当初におきまして二百四十六件の出産見込みということで精算したわけでございますが、出産件数が増加傾向でございまして三十五件程度になろうかと存じますので、その差額を今回補正追加いたしましたのでございます。

それから五項の育児諸費におきまして四十一万四千円の追加でございますが、これは被保険者が出産し、その生まれました子供を育てるとき育児手当金として六千円を給付するわけでございます。これも助産費と同様に年度末までに不足を生ずる見込みでございますので、四十一万四千円を追加補正いたしたいものでございます。

次に三三ページへ入りまして、五款の諸支出金でございますが、十万円を追加し、六十万六千円といたしたいものでございますが、これは被保険者の資格がなくなった場合、その場合にすてに納付済みの国民健康保険税を還付することが起きるわけでございます。現在の状況からおきまして還付金の不足見込み額が十万円程度になろうかと存じますので、これを今回追加いたしたいものでございます。

次に歳入の補正でございますが、三二ページの上段四款に国庫支出金に九十二万円の追加でございますが、六億五千三百六十五万四千円といたしたいわけでございます。これは助産費の給付に對しまして三分の一の国庫補助金がつくわけでございまして、今回の助産費の追加補正額が二百七十六万円の三分の一相当額といたしまして九十二万円を計上したものでございます。

それから九款の繰越金でございますが、今回の補正財源として二百三十五万四千円を追加し、千六百三十五万四千円といたしたいわけでございます。

以上が歳入歳出これによって補正し、それぞれ十一億三千六百九十五万四千円といたしたいものでございます。

以上よろしく願います。

議案第六十五号 昭和五十一年度館山市ユースホステル特別会

計補正予算(第一号)

(商工観光課長中村正雄君登壇)

○商工観光課長(中村正雄君) 続きまして議案第六十五号ユースホステル特別会計補正予算第一号の説明をいたしたいと思います。第一条にお示しいたしましたとおり、歳入歳出の既定予算千三

百三十五万三千円に對しまして今回二十三万五千円の追加をお願いし、歳入歳出をそれぞれ千三百五十八万八千円といたしたいと思いますわけでございます。

以下追加の二十三万五千円につきましては、三八ページの事項別明細書によって御説明申し上げたいと思います。

最初に歳出でございますが、今回追加の二十三万五千円は、すべて一八節備品購入費でございます。

この内訳でございますが、石油ストーブ三台、電子ジャー二台、ポット三個、毛布五十枚のそれぞれ購入費でございます。電子ジャーを除きましては石油ストーブ、これは現在各室に一台ずつ暖房用に使っておりましての買いかえでございます。毛布につきましては各室に約四枚程度の毛布を使用しておりますが、その毛布の中で昭和三十七年からすでに十四年使用して、保温力が非常に低下した毛布が五十枚ばかりございますので、これらの買いかえでございます。ポットにつきましては利用者の食事の保温ということで、今回新規に購入を計上いたしたわけでございます。以上二十三万五千円の追加でございますが、これに對します対応財源といたしまして、歳入欄に掲載してございますように、繰越金のうちから二十三万五千円の追加をお願いする次第でございます。

議案第六十六号 昭和五十一年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

（水道課長大嶋重義君登壇）

○水道課長（大嶋重義君） 三九ページをお開きいただきしたいと思います。

議案第六十六号昭和五十一年度館山市水道事業特別会計補正予算第一号について御説明申し上げます。

今回の補正を行うものは四件でございます。

第一点は業務の予定量の補正でございます。水道拡張事業におきまして一億二千三百四十万四千円を追加いたしました。事業量を八億二千九百十三万三千円にしようとするものでございます。

これは先ほど市長から説明がございましたとおり、今回の防衛施設庁の補助の追加の見通しがつきましたので、このように補正をするものでございます。

それから第二点は資本的収入及び支出の補正でございます。資本的収入、支出にそれぞれ一億二千三百四十万四千円加え、おの総計を八億五千二百十三万一千円にしようとするものでございます。これは先ほど申し上げたとおり水道拡張事業量の追加に伴うものでございます。

なお、収入といたしましては、企業債、国庫支出金が財源でございますので、ここに掲げてあるとおりの補正をいたすものでございます。

次に第三点といたしまして継続費の補正でございます。これも事業量の追加に伴う補正でございます。継続費の総額には移動はございません。五十一年度につきましては一億二千三百四十万四千円の増加で八億二千九百十三万三千円といたしまして、五十二年度につきましてはこの増額分と同じ額を減額して四億七千五百四万円にしようとするものでございます。

この補正によりまして、五十二年度予定の事業——主にこれは配管工事でございますが、この工事の一部が本年度に繰り上げて

行うことになるわけでございます。

なお、継続費の詳細につきましては四四ページを開いていただきたいと思ひます。ここに継続費の調書の補正を掲示いたしてございます。左側のほうに年度別にそれぞれの事業量を年割額欄に掲げてございます。またこれらの事業の進捗率につきましては右側の欄に掲げてございます。それで五十一年度分は予定どおり消化いたしますと三六・四％になりまして、これを四十九年度から累積進捗率にしますと七九・一％ということになります。それで五十二年度は残りの二〇・九％ということでございます。この五十二年度をもって継続事業を完了する、このようになっておる次第でございます。

第四点といたしまして企業債の補正でございます。このたびの補助対象事業量の追加に伴ひましての補助財源として企業債が認められることになりましたので、六千五百万円を追加して限度額を四億三千六百万円にしようとするものでございます。

次に補正の内容につきましては、収入、支出の見積りもりの基礎によりまして御説明申し上げたいと思ひます。四五ページを開いていただきたいと思ひます。

収益的支出でございますが、この予算の補正はございませんけれども、支出の中で目内の移動がございます。

一目の中で電動力費百二十八万六千円の追加でございますが、この理由は本年八月から電力料の値上がり——二一・〇％の上がつたわけでございます。これが主な理由でございます。電力は現在月平均約十八万キロワットで、金額にしますと百八十六万八千円程度のものがかかっておるわけでございます。現在の予算残か

らいたしまして年度末までこの程度の不足が見込まれますので計上いたしました。

次に薬品費の百五十万円でございますが、これも年度末までこの程度の不足が見込まれるわけでございます。これはことしの七月に宮城浄水場に急速のろ過機を新設いたしました、これに伴ひましてポリ塩化アルミニウム、普通バックといつておりますが、こういう薬剤を使用するわけでございますが、この薬剤につきましては当初の予算には計上しておりませんでした。そういうような関係と、それから塩素の使用料がふえたということ、もう一つはこうした薬品類が一月から平均二五％の単価アップになる、こういうことから不足見込みでございます。

次に受水費の四百八万七千円の減額でございますが、これは当初三芳水道から年間三十二万八千五百立方メートルの水の利用、これを金額にいたしますと千九百七十一万円でございますが、これを計上いたしましたわけでございます。ところが現在までの受水状況をみますと月平均二万四百立方メートル、金額にいたしまして百二十二万四千円程度でございます。今後三月までの間の使用料を考慮に入れますと大体六万八千立方メートル程度のものが余剰になるといふ見込みでございますので、このように今回更正するものでございます。

この余剰を生じた理由でございますけれども、一つはことしは雨が多かったせいか、山本水源地の地下水が従前よりも多かったということが一つ。それから二つにはことし夏の水源対策を行ったということが二つ。もう一つはことしは総体的に雨が多かった、こういうことが考えられるわけでございます。

なお、この受水費の更正財源につきましては、動力費以下四件の不足財源にこれを充てたいとしますのでございます。

次に修繕費につきまして五十五万一千円の計上でございます。

内容はここに量水器関係と配水施設の修繕費が掲げてございますが、量水器関係につきましては当初予算で百四十戸の期限切れのものの取りかえを計上しておったのでございますが、宮城水道管内におお十三ミリから五十ミリまでのもので四十三個のものがふえましたので、この不足分が二十七万三千円でございます。

それから配水施設の修繕費でございますが、これも当初三百五十万計上でございますが、市の浄水場は七ヶ所市内にございますが、非常に数が多い関係でなお年度末までにこの程度の不足が見込まれますので計上いたしました。

それから路面復旧費に七十五万円の計上でございますが、水道費におきましては漏水等の修理で必ず道路の修理がつきまとうわけでございますが、こうしたことで年度末までに現在の予算残からこの程度の不足見込みが生じますのでお願いするわけでございます。

次に四七ページの資本的収支のうち支出の面から御説明申し上げたいと思います。

支出におきまして一億二千三百四十万四千円を追加いたしました、合計八億五千二百三十一万一千円にしようとするものでございます。

この内容でございますが、これは全額が水道拡張費への追加でございます。

この内容の主なものは、工事請負費で一億二千二百四十二万五千円の補正でございます。これは先ほど申し上げましたとおり、私どもも一日も早く通水して水不足を解消いたしたいということで、防衛施設庁に対しまして補助金の追加について強くお願いを重ねてまいりましたところ、ようやくこのほど追加が認められる運びになりましたので、ここに補正をお願いするものでございます。

この予算への追加といたしましては一億二千二百万円でございますが、今回の防衛施設庁からの補助対象事業費としては一億五千万円でございます。それでこの補助金は九千万円ということでございます。今回の追加の事業費は主として本管の配管工事に充てるものでございます。五十二年の三月までに延長にして約四千メートル程度の布設を予定いたしております。

なお、拡張工事の現況でございますが、御参考までに簡単に申し上げますと、ダムは現在できあがりまして現在試験湛水に入っております。あのダムは総貯水量が六十三万立方メートルでございますが、現在約三十三万立方メートルたっております。それで本年度の事業といたしまして浄水場と配水池について工事を急いでおるわけでございますが、現在こういった工事を終りまして整備の段階に入っておりますので、三月までには予定どおり完成する見込みでございます。

なお、配水管工事は本年度一部が完成すれば来年夏には一部通水が可能の見込みでございますので、よろしくお願い申し上げます。

次に委託料百三十二万六千円でございますが、ただいま申し上げ

げたとおり水道施設の工事の追加に伴う監理監督の委託料でございます。

次に賃金で三十四万七千円の減額でございますが、これはダムの下流に用水路があるわけでございます。この用水路の整備の人夫賃金を当初予算で計上したわけでございますが、実際に今まで経過いたしましたして予定より少なくて済む見込みでございますのでこのように減額するものでございます。

次に上の資本的収入について御説明申し上げます。

これは支出の追加額と同額の補正でございます。

企業債の六千五百万円、国庫補助金の五千八百四十万四千円の追加はいずれも追加による水道拡張事業費に充てる財源でございます。

この中で国庫補助金におきましては、当初水道拡張事業の補助金で二億六千六百万円、それから水道水源開発費補助で三千五百万円、計三億百万円を計上いたしましたわけでございますが、水道水源開発費補助——すなわち厚生省補助につきましては、去る三月の臨時議会におきまして御説明しましたとおり、補助が重複いたしますので今回これを減額することいたしました。したがって国庫補助はこの説明欄上段の防衛施設庁の補助一本になるわけでございます。

この九千三百四十万四千円の内訳でございますけれども、内九千万円は今回追加になった事業費一億五千万円の十分の六に相当する補助金でありまして、残りの三百四十万四千円は当初予算計上の補助金に対し決定の段階でふえましたので、その差額を計上いたしましたのでございます。

なお、本年度の防衛補助は、ダムの残り工事と浄水場の工事及び配管工事で、合計三億五千九百四十万四千円と相なるわけでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で各案件の説明は終わりました。

休 会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

議案調査のため明十二月十一日から十二月十二日までの二日間休会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって明十二月十一日から十二月十二日までの二日間休会することに決しました。

延 会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日の会議はこれにて延会することに決しました。

次会は十二月十三日午前十時開会といたしたいと思います。その議事は通告による行政一般質問といたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、會議錄署名議員の指名
- 一、会期の決定
- 一、議案第六十二号乃至議案第六十六号
- 一、休会

